

教務部資料

マラヤ大学予備教育センター AAJ 教科教務部

1 指導の目的

マラヤ大学予備教育センター日本留学特別コース（以下、AAJ）は2年制で、学生が日本留学試験（以下、EJU）及び修了試験に合格し、留学先である日本の国立大学での学習に支障なくついていける学力を身に付けることを目的としています。EJUは2007年度から導入され、現在では、その結果とAAJでの修了試験の成績、2年間の出欠状況などを総合して日本留学の可否が判定されています。

2 学習指導内容

AAJでは、約1年半の短い期間で、日本の高校3年分の授業内容を学習することになります。そのため、各教科（数学、物理、化学）で教材や指導方法を工夫し、授業を実施しています。詳細は各教科のページをご覧ください。

3 授業時数と授業展開

AAJでの2年間は、 Semester I～ Semester IVで構成されています。授業日は月～金曜日で、1日8限授業（午前：1～5限、午後：6～8限）です。ただし、9限目にLHRや補習を行うこともあります。2026年度の各教科の1週間あたりの授業時数は下表のとおりです。

	数学	物理	化学
Semester I (1年前期)	5	3	3
Semester II (1年後期)	8 (数学 $\alpha+\beta$)	5	5
Semester III (2年前期)	10 (数学 $\alpha+\beta$)	9	8
Semester IV (2年後期)	未定	未定	未定

※ 学生は、各教科の授業以外に日本語や英語の授業等を受講します。

(1) Semester I (1年前期)

2022年度まではローカル教員とチームティーチング形式で授業を行っていましたが、カリキュラムが改訂され、2023年度からは日本人教員が英語を用いて授業を行っています。授業内容は、各教科で検討し、今後の授業で必要とされる基礎的な内容を中心に授業を実施しています。

(2) Semester II (1年後期) ～ Semester IV (2年後期)

日本語を用いて各教科の授業を行います。数学は数学 α と数学 β に分け、それぞれ4クラス編成、物理と化学は5クラス編成で授業を実施しています。また、EJU前には習熟度別に分けて授業をする等、学生の理解をより深める工夫をしています。また、物理と化学では、実験を行う機会もあります。

4 定期試験

Semesterごとに中間試験と期末試験があります。ただし、Semester IVは修了試験のみで中間試験、期末試験はありません。学生が次のSemesterに進級するためには、試験結果や平常点による総合成績が定められた基準を超える必要があります。

5 学生の在籍数

2026年2月1日現在、2年生41名、1年生50名が在籍しています。1年生については、通常であれば5月入学ですが、コロナウイルスの影響による入学時期の遅れが続いており、2025年度は8月に入学しました。2026年度は7月に入学が予定されています。

6 その他

Semester IIからクラス担任を配置し、必要な連絡や指導等を行います。Semester III以降は、よりきめ細やかな指導を実践できるよう、クラス担任に加えて学生一人一人に学生担当教員を配置し、個人面談や進路指導等を行っています。学生担当教員は一人につき学生3名程度を担当します。

教科総務部資料

【新規団員が用意する費用について】

マラヤ大学予備教育センター A A J 教科総務部

赴任に際しての旅費や宿泊費などは、マラヤ大学の規定により支給されますが、来馬の準備や当初の生活のために自己負担金が必要となります。その概算を以下に示しますので参考にしてください。

なお、この中には、後に手当として支給されるものも含まれています。また、家族構成や車の購入、海外保険の加入の有無、また換金レートにより費用は異なりますので、ご注意ください。

1 必ずかかる費用

(1) コンドミニアムの契約金等 70万円

団員が入居するコンドミニウムを確保するため、必要に応じて事前に契約をしておきます。その際、コンドミニウムの敷金や4月分家賃、保証金（家賃の約4割）、契約手数料、インターネット契約等で必要となる金額です。残金は来馬後に返金します。この70万円を1月下旬頃、副教科長宛てに海外送金をしてもらいますので、それまでに準備してください。保証金は、コンドミニウムの補修等が必要な場合はその費用に充当され、それを差し引いた残金がコンドミニウム解約時に返金されることになっています。

(2) 生活費（4,5月分）+家賃5月分 約30万~40万円

マラヤ大学からの給料や、文部科学省からの手当は例年5月下旬に振り込まれます（2025年度はマラヤ大学からの給料は5月に振込）。その間の生活費は自分で準備しておく必要があります。これは日本出発までに準備する費用になります。

※家賃は住居手当として文部科学省から支給されます。（例年4月来馬の場合は5月以降）

2 必要に応じてかかる費用（個人により異なります）

(1) 自動車

新車購入の場合 130万円~270万円

こちらで自家用車があると大変便利で、多くの団員が所有しています。（購入の場合は帰国時に売却でき、新車の場合は例年使用2年で購入時の6割から7割の価格で売却しています。）

(2) 予防接種（一人当たり）数万円~20万円

渡航前に予防接種を受けることが推奨されています。（A型肝炎、B型肝炎、破傷風、日本脳炎等）種類、価格については、病院でご相談ください。

(3) 来馬用生活用品準備および常備薬等準備 数万円~10万円

(4) 海外旅行保険 （1人当たり2年間）30万円~

この保険の加入は任意です。保険会社が提携している病院では、日本語での受診やキャッシュレスサービスが利用できます。詳細は文部科学省の説明会で説明があります。費用は利用する保険会社や契約内容により調整できますので、保険会社に相談してみるとよいでしょう。

※ 海外旅行保険に加入しない場合でも、マラヤ大学の指定病院にて無料で受診することもできます（無料受診できない疾病もあります）。ただし、英語またはマレー語での問診となります。また、一般の病院でも、現役教員は所定の書類を提出することにより、帰国後に公立学校共済から約7割の還付を受けることができます。

(5) 教育費（クアラルンプール日本人学校の場合）

6月までに必要な経費は、入学金、授業料、スクールバス料金など （1人当たり）約50万円

数学科指導状況

1 指導範囲

日本留学試験（以下 EJU）のシラバスを基に指導します。日本の高校のカリキュラムとほぼ同じで、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・Cのほぼ全ての内容を指導します。また、日本の大学受験指導と同様、EJUに向けた発展的な内容の指導も行います。さらに、修了試験後は学習指導要領外の内容や日本の実際の大学入試問題、大学の教養程度の内容なども指導しています。

2 使用教材（2026年度）

2年生	教科書	数研出版	新編	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B、数学C
	参考書	数研出版	チャート式	基礎からの数学Ⅰ+A（青チャート）
			チャート式	基礎からの数学Ⅱ+B（青チャート）
			チャート式	基礎からの数学Ⅲ+C（青チャート）
			AAJ作成オリジナルテキスト	
1年生	教科書	数研出版	新編	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B、数学C
	参考書	数研出版	チャート式	基礎からの数学Ⅰ+A（青チャート）
			チャート式	基礎からの数学Ⅱ+B（青チャート）
			チャート式	基礎からの数学Ⅲ+C（青チャート）
			AAJ作成オリジナルテキスト	

3 授業の進め方

私たち日本人教員は、AAJ 1年生の7月から週2コマ(1コマ50分)の授業を主に英語で行います。9月上旬からの授業では、少しずつ日本語を増やし、11月以降は、主に日本語を用いて授業を行います。翌年11月の第2回EJUまでの約17ヶ月間で日本の高校3年間分の内容を指導し、EJUに向けて留学に必要な学力を育成します。さらに、本コースの修了試験に合格し、最終的には日本の大学の数学の講義に対応できる学力を育成することを目標としています。

学生たちが高校卒業までにマレーシアで学習してきた内容は、日本の高校のカリキュラムと約4割程度しか重複していません。さらに、日本とマレーシアでは指導の観点が異なり、EJUで出題される問題の形式もマレーシアの高校で学習した形式と異なります。そのため、日本の高校生が学習する内容を最初から日本式でやり直す必要があります。また、多くの学生たちはAAJに入学してから日本語を学び始めるため、数学の授業においても最初は英語で説明したり、なるべく易しい日本語に置き換えたり、ふりがなや英単語を併記したりして、ゆっくりと簡潔な説明を心がけながら指導しています。見方を変えると、数学の授業を通した日本語の指導という側面もあります。

授業を展開するに当たっては、教科会議で検討した年間計画にしたがって進度表を作成し、毎週の教科会議で目線合せをしながら、全てのクラスで同じ進度、同じ内容の授業をしています。定期試験の他に、毎時間の小テスト、単元テストやブレイク課題テストなどを随時行うことで学力の定着を図っています。また、テストごとにデータを分析し、必要に応じて学生にテストのやり直しを行わせるほか、各学生の学力に応じて補習を実施しています。さらに、2年生のEJU問題演習の授業においては習熟度別クラス編成を実施し、きめ細かな指導をしています。

現在は、8名の日本人数学科教員が在籍しており、常に目標を念頭に置いた上で議論を交わしながら、全員で全学生を指導していくという体制で教科指導を行っています。

4 その他

授業で使用するテキスト、演習プリントや小テスト、復習を目的とした課題プリント等を数学科全員で分担し、作成しています。これらは主に数研出版のStudyaidで作成しています。その他にも日本留学試験問題集、全国大学入試問題正解（旺文社）等の参考資料も備えています。

物理科指導状況

1 指導範囲

AAJでの物理の指導範囲は以下のとおりです。学習指導要領の内容に概ね沿って指導しています。各分野とも、物理基礎と物理の内容を統合して指導しています。

- (1) セメスターⅠ（1年生前半） 運動の表し方，物体の運動
- (2) セメスターⅡ（1年生後半） 運動の法則，力学的エネルギー，運動量，円運動と万有引力，熱力学
- (3) セメスターⅢ（2年生前半） 波，電気と磁気，原子
- (4) セメスターⅣ（2年生後半） EJU過去問題演習，修了試験対策，学生実験

2 使用教材（2025年度）

- (1) 物理科作成「分野別テキスト」，「EJU物理問題集」，「公式集」
- (2) 教科書「総合物理¹」，「総合物理²」（数研出版）

3 授業の進め方

(1) 学習目標

- ① 基本的な物理概念を理解する。
- ② 興味関心を持って，物理的な視点で自然現象を探究する。
- ③ EJUで50%以上を取得する学力を身につける。

(2) クラス形態

- ① 1クラスを教員1名が担当し，5クラス同時展開で授業を行います。ただし，入学当初は大教室で一斉授業を行います。また，2年生後半の学生実験では，新たにグループを作成し，数種類の実験を行います。
- ② 通常は学力を均等にしたクラスで授業を行います。2年生のセメスターⅢの途中からは，習熟度別クラス編成を実施します。

(3) 授業について

- ① あらかじめ作成した進度表に従い，5人の教員が同じ進度で授業を行います。小テスト，週末課題，単元テストも共通して実施します。
- ② セメスターⅠからⅢまでは，主に「分野別テキスト」を使用して，基本的事項の説明と問題演習および解説により授業を進めます。また，セメスターⅢでは，「EJU物理分野別問題集」を用いた既習事項の復習も並行して行います。
- ③ 入学当初の授業は主に英語で説明します。少し日本語に慣れてくると，簡単な日本語を用いて説明を加えていきます。このように，学生の日本語習熟度に合わせて，日本語の使用頻度を高めていきます。特にセメスターⅠのテキストは日本語と英語を併記しています。
- ④ 授業では物理の概念や解き方を教えるだけでなく，日本語の説明文や問題文の意味を理解させることも重要です。学生への説明では簡潔で正確な日本語を話すこと，そして，文章を細かく区切ることを心がけています。
- ⑤ 学生に多くの発問を投げかけ，学生と教員双方向のコミュニケーションを大切にしています。
- ⑥ 可能な限り演示実験や実験動画の提示を行い，学生の興味関心を高めるとともに，物理現象のイメージ化を図っています。

4 その他

- ① 担当者が作成したパワーポイントを共有し，スクリーンに映して授業を進めている教員が多いです。
- ② 日本で使い慣れた参考書，問題集，デジタル教材などがあると便利です。
- ③ 簡単で面白い演示用の実験器具や材料，動画があれば，ぜひお持ちください。

化学科指導状況

1 指導範囲

日本の学習指導要領に沿った内容を指導しています。日本の高等学校の授業内容とほぼ同じですが、学生の日本語での授業への取り組みやすさを考えて、各項目の順番を変えています。

Semester I …1年生(前半) Introduction・化学の基礎(化学で使う日本語)・酸と塩基①

Semester II …1年生(後半) 酸と塩基②・酸化と還元・気体の法則・状態変化・反応エンタルピー・
化学反応の速さと平衡

Semester III …2年生(前半) 原子・化学結合・溶液の性質・有機化合物・高分子化合物・無機物質

Semester IV …2年生(後半) EJU対策授業・実験 等

2 使用教材(2026年度)

教材：学習テキスト(AAJ化学科作成) 他

教科書：化学基礎(数研出版)・化学(数研出版)

資料集：スクエア最新図説化学 新課程二訂版(第一学習社)

3 授業の進め方

(1) 指導目標

- ① EJUに合格する学力を身につけさせる。
- ② 日本で化学教育を受ける際に支障がないように、化学の基礎用語・知識を身につけさせる。
- ③ 自ら化学的なテーマに興味を持たせ、自ら考え、問いかける力を身につけさせる。
- ④ EJUの新課程や新傾向の出題への対応力を身につけさせる。

(2) 授業形態

- ① 授業は1クラスに対して教員1名が担当し、5クラス同時展開で実施します。
※一部クラス形態が異なる授業もあります。
- ② 通常は学力を均等にしたクラスを作成し、授業を実施します。
- ③ EJU前の授業は習熟度別クラスで実施します。

(3) 授業について

- ① 化学科で作成した学習テキストを中心に授業を進めます。また、授業資料はプロジェクターで投影しながら授業を行っています。
- ② 单元ごとに作成した進度表に従い、5クラスが共通進度で授業を実施します。
- ③ 通常の授業では実験などは行うことができないため、デジタル教材などを取り入れています。
※ Semester IVでは実験を数回実施しています。
- ④ Semester II以降は日本語を使って授業を行っていますが、学生の日本語の習熟度を確認しつつ、ゆっくりと分かりやすい日本語で説明する必要があります。
※ Semester Iの授業は英語を使って行います。
- ⑤ EJUの化学は、基礎的・基本的な問題が多く出題されます。そのため、化学の授業では反復学習に力を入れており、日々の宿題および单元末にはテストを実施しています。

4 その他

- ① ローカルスタッフとのやり取りは英語で行います。
- ② 授業でプロジェクターを使用するため、ノートPC、タブレット、HDMIケーブル等が必要となります。
- ③ プロジェクターとデバイスとの接続はHDMIケーブルを利用しています。
- ④ 日本で使い慣れた書籍や教具、デジタル教材などを持ってくると役に立ちます。